

すべてのステークホルダーと真摯な姿勢で コミュニケーションを図り、環境経営の環を拡げていきます。

社会から成長と発展を望まれる企業であるためには、実際に環境保全活動を推進すると同時に、考え方や活動内容を多くの方々に知っていただき、社会からの信頼を得ることが重要です。また、活動事例を積極的に社内外に情報発信することは、さらに活動を促進し、循環型社会づくりにも貢献することになります。リコーグループは、環境コミュニケーションと環境保全活動は環境経営の両輪であるという考えのもと、真摯な姿勢でのコミュニケーションを通して環境保全活動の環を拡げていきます。

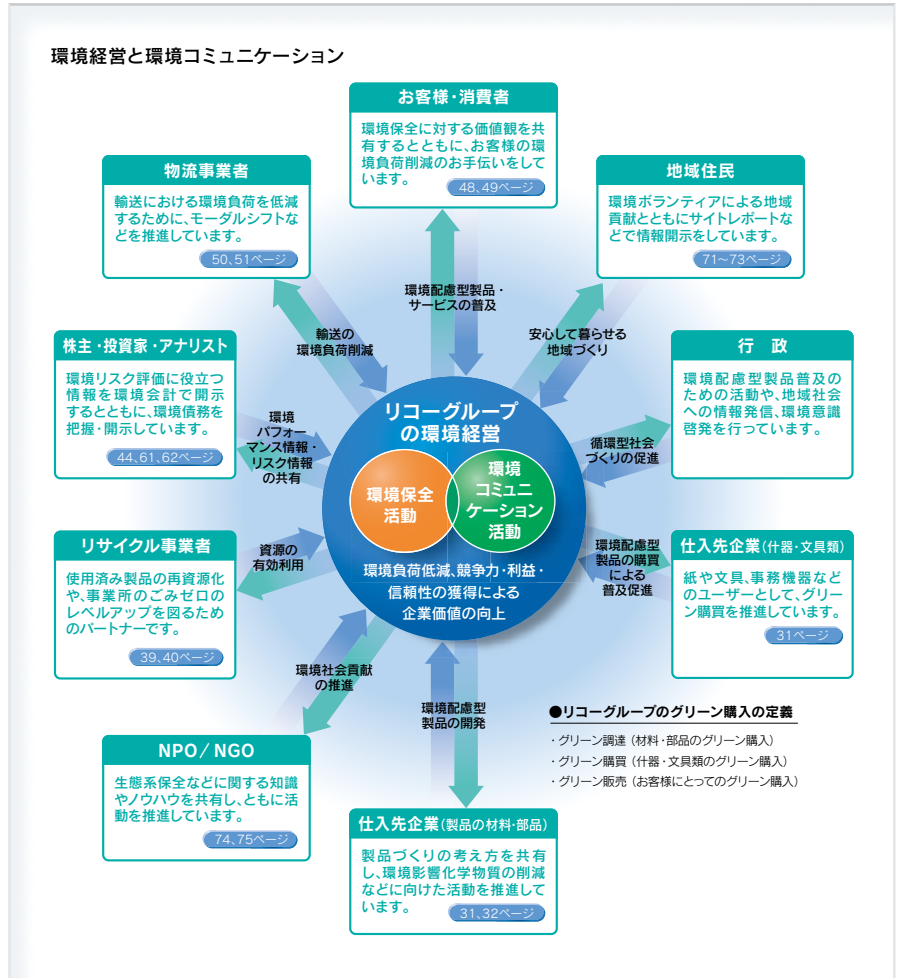
環境経営報告書の発行

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年報告書を発行しています。2004年度からは、サステナビリティレポートとして、環境経営報告書、社会的責任経営報告書、アニュアル・レポートの3つの報告書を6月に発行しています。この「サステナビリティレポート2008」が、第12回環境コミュニケーション大賞(主催:環境省、(財)地球・人間環境フォーラム)で環境報告大賞(環境大臣賞)、さらに、「環境経営報告書2008」が、第12回環境報告書賞(主催:東洋経済新報社、グリーンリポーティング・フォーラム)で最優秀賞を受賞しました。



斉藤環境大臣から環境大臣賞の授与



環境サイトレポートの発行

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループでは、地域とのつながりを重視し、行政、事業所周辺の住民、社員の家族などとのコミュニケーション手段として環境サイトレポートの発行を促進しています。2001年度には、「環境サイトレポート作成ガイドライン」*1を作成し、グループ内で運用しています。リコー御殿場事業所の「環境報告書2008」*2は、第12回環境報告書賞で環境サイトレポート賞を受賞しました。

*1 <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/site.html>
*2 <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/gotenba/index2008.html>

環境Webサイトの公開

《リコー/グローバル》

リコーの環境Webサイト*1は、製品の環境情報や最新のニュースなど、調べたい情報を誰でも簡単に探し出せるよう、「見やすさ」「わかりやすさ」「使いやすさ」にこだわって制作しています。英語版ホームページも開設しており、各国の関連会社にもリンクしています。また、環境ホームページの中には、子ども向け学習サイト「Ecoday テンペル・タツトルストーリー」*2を公開しています。リコーが支援する世界各地の森林生態系保全活動のストーリーや、楽しみながら環境問題を学べるクイズやゲームのコンテンツがあります。

*1 リコー環境経営Web <http://www.ricoh.co.jp/ecology/>
*2 Ecoday テンペル・タツトルストーリー <http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecoday/>

外部講演

《リコー／日本》

リコーでは、環境経営の環を拡げる目的で、企業、団体などあらゆる方面に向けた講演を行っています。社員が自らリコーグループの環境保全活動を紹介し、皆様の活動実践の参考にしていただくことを目指しています。主な内容は、環境経営の考え方、本業に関わる環境保全活動、環境社会貢献活動（森林生態系保全+環境ボランティア）などです。2008年度は、国・地方公共団体、商工会議所、企業、大学など、合計で33回の講演を行いました。



講演するリコー社員（エコプロダクツ特別シンポジウム）

日本科学未来館で

「コピー機の世界展」を開催

2008年8月、東京・お台場の日本科学未来館で「紙で伝えよう コピー機の世界展」を開催しました。2007年に続き、夏休み期間を利用して、リコーの技術や環境の取り組みについて知っていただくイベントで、今年は「紙で伝える」をテーマに、コピー機の仕組みをわかりやすく解説しました。連日、展示会場を訪れた子どもたち、家族連れなどのさまざまな方々が、楽しみながらリコーの画像処理や文字認識の技術に触れ、期間中の総来場者数は約3万人に達しました。



設置された「約束の木」に名前を貼りつける子どもたち

お客様の環境経営をサポート

《リコーチャイナ／中国》

販売統括会社リコーチャイナ(RCN)は、中国のリコーグループ各社が環境経営活動を通じて得たノウハウを積極的に提供することで、お客様の信頼獲得につなげています。これまでに、約50社のお客様への説明会と、約20回の講演会を開催しました。環境負荷とコスト削減のノウハウ提供はもちろん、ISO14001の認証取得や環境社会貢献活動の実施に向けたコンサルティングなど、さまざまな面からお客様の環境経営をサポートしていきます。



e-GAT（日中電子政務応用技術協会）での講演
（RCN 社会環境部長 田中光男）

展示会への出展

《リコーグループ／日本》

2008年12月、東京ビッグサイトで開催された環境総合展示会「エコプロダクツ2008」に出展しました。リコーが目指す地球の姿を紹介し、環境経営に関わる技術や製品、取り組みについて総合的な展示を行いました。メインブースでは、クイズ形式のアニメーションで生物多様性保全の大切さを解説する子ども向けコンテンツや、リコーの環境経営、コミットサークルを解説するデモンストレーションを展開しました。



環境広告の実施

《リコー／グローバル》

リコーの環境広告では、リコーの環境経営のコンセプトを、実際の活動事例に基づいてお伝えするようにしています。2008年度は、「環境技術」や「お客様とともに進める環境保全活動」をテーマにした環境広告を実施し、ステークホルダーと一体となった保全活動による環境経営の環の拡がりを訴求しました。環境広告は、日本はもちろん海外でも実施しています。

※ <http://www.ricoh.co.jp/ecology/communication/adv.html>



環境経営の事例を紹介する雑誌広告

生徒、児童の環境活動を支援

《リコーアメリカズコーポレーション・リコー／グローバル》

米州の販売統括会社リコーアメリカズコーポレーション(RAC)は、「ISEF (International Science & Engineering Fair)」のメジャースポンサーです。ISEFとは、世界最大級の高校生による科学コンテストで、アメリカだけでなく世界40以上の国と地域から約1,500人の生徒が参加しています。RACは2005年から「リコー・サステナブル・デベロップメント賞」を設け、環境保全とビジネ

スの両立に寄与する研究に贈っています。2009年度の表彰式は、ネバダ州のリノで行われ、最優秀賞は、Andrew K. Millerさん、Hetal A. Vaishnavさんでした。またリコーでは、日本全国の小・中学校が実践しているエコ活動とエコをテーマにした作文を顕彰する「学校自慢エコ大賞」に協賛しており、2009年3月に第5回の表彰が行われました。

員がそれぞれの家族、友人や地域住民にも声をかけてキャンドルナイトやファイヤーパーティーなどを行い、300kgのCO₂削減に貢献しました。また参加した社員の中から抽選で6人に商品の水力時計が贈られました。



(左から)RAC Bob Whitehouse、Hetal Anjibhai Vaishnavさん、Andrew Kipling Millerさん

グローバル環境イベント

Earth hour 2009への参加

《NRG ゲステットナーサウスアフリカ／南アフリカ》

販売会社のNRG ゲステットナーサウスアフリカは、3月28日に実施されたEarth hour 2009に参加しました。オフィスやネオンサインの消灯のほか、社員にも参加を呼びかけ、合計74人の社



ファイヤーパーティーの様子

TOPIC

リコーグローバルエコアクション

地球環境について考え、行動する日に、世界31カ国・地域、約43,000人が参加しました。

リコーグローバルエコアクションは、6月5日の世界環境デーにちなんで開催されるリコーグループ社員の意識啓発を目的とした環境イベントです。第3回目となった2008年も、世界各地のリコーグループだけでなく、お客様企業や地元政府などへ積極的な参加呼びかけを行いました。その結果、31カ国・地域65社、約43,000人が参加し、広告塔・事業所看板、オフィスの消灯や定時退社、エコ通勤などのほか、各地でさまざまに工夫を凝らしたアクションが実施されました。また、2008年12月には、日本国内のリコーグループを対象にした冬のエコアクションも実施し、これにあわせ、2008年11月末開催の女子プロゴルフ大会「LPGAツ



地元小学校の生徒に環境を守ることの大切さを説明 (リコーパナマ)



リコーグローバルエコアクション啓発ポスター

アーチャンピオンシップ「リコーカップ」でも参加を呼びかけました。これに対しLPGA会長をはじめ、25名の出場選手、690名の来場者の方々にエコアクションを実施いただくなど、エコアクションの環がさらに広がりました。